

「学びの場、人との出会い：私が歩んできた道」

病態解析医科学講座 循環系総合内科学(第三内科) 教授 大屋 祐 輔

2009年8月16日より三代目の教授として第三内科教室の担当しております大屋です。初代の柗山教授、二代の瀧下教授が築いてきた教室の伝統を活かしつつ、変わりつつ医療・医学の世界の流れに対応できるような教室運営を行っていきたいと思います。

自己紹介を兼ねて、私の歩んできた道を書きたいと思います。若い先生方の進路決定の参考になればと思います。私は、九州大学を1982年に卒業後、九州大学第二内科に入局しました。その教室は、いわゆるナンバー内科と呼ばれる大きな内科で、大学病院の病棟や関連病院において幅広く内科疾患の勉強ができました。1年目から2年目にかけての研修では、九州大学病院内科で内科疾患全般を学びながら、循環器内科病棟・CCUにおいて循環器疾患を、また、宮崎の国立病院に出張し、さまざまな内科疾患の経験を積み、自分の方向性を循環器疾患とその予防と決めました。

その後、科学的思考を身につけること、また、研究を行う知識とスキルを身につけたいとの希望がありましたので大学院へ進学しました。大学院では薬理学教室で、おもに基礎研究に従事し、学位取得終了後、その延長で2年間のアメリカ留学をしました。この間、臨床からは離れましたが、自分で仕事をまとめ論文として発表したり、世界一流の研究者たちと交流できたことは、視野が広がるとともに、自分の自信とモチベーションアップに繋がりました。帰国後は、公立学校九州中央病院内科、県立九州歯科大学内科で働きました。九州歯科大学内科時代は、当時の教授が久山町研究（日本有数の疫学研究コホート）が開始されたときの責任者でしたので、思いがけず疫学の勉強をすることができました。このように、卒業してから10年間の間に、さまざまな臨床や研究の場を経験でき、そこで様々な多くの指導者や同僚たちと接することができたことは大変幸せでした。人との出会いが、自分の学びの道において、とても大切であったと実感しています。

卒後10年目の1992年に九州大学第二内科の教員

となりました。そこでは高血圧とその関連疾患、またそれらによって引き起こされる循環器、腎臓、脳卒中の臨床および基礎や臨床研究を行いました。また、自ら臨床や研究の指導者として多くの後輩たちの面倒をみることで、教育の難しさを実感した時期でもありました。また、OSCEやクラークシップなどの新しい医学教育が始まる時期でしたので、それらの大学内での立ち上げに関与しました。

卒後20年目の2002年に、大学の先輩でもあり、卒後3年目に私を高血圧研究へと導いていただいた瀧下教授より呼ばれ、琉球大学第三内科に移動し助教授となりました。瀧下教授を始め、第三内科の医局員に温かく迎えていただきました。それからは、教授や若い教室員とともに、第三内科や琉球大学医学部が、魅力ある、また、活力ある教育と研修と研究の場であるように、と走り続けた7年半でした。紙面上、詳細は省かせていただきますが、これまで、私とともに歩んでくれた医局員のみならず、そしてサポートしてくれた同僚や仲間たちに感謝します。また、適切な指導と自由に働ける場を作っていただいた瀧下教授を始め、他の教授の先生方にも深謝を致したいと思います。

今回、第二内科と第三内科の二つの内科の教授が同時に変わりました。現在、第一内科の藤田教授、第二内科の益崎教授、私の内科の3名の教授は、定期的に会合を持ち、内科全体や臓器別の診療体制、教育、研修について話し合い、相談し、協力し合っただけで対応するようにしています。このお二人のような素晴らしい先生方と同僚として働く機会を得たことも、私にとっては幸運だと思っています。循環器系総合内科（第三内科）は、内科を診る診療科の一つとして、また、臓器別では、循環器内科、腎臓内科、神経内科として、琉球大学の発展と沖縄県の医療の向上へ貢献できるよう、教室一同で頑張っていきたいと思います。同窓会の皆様からのご助言やご鞭撻のほどお願い申し上げます。